

担任以外の教職員も関わる組織体制による不登校生徒への支援

【武蔵野市立 A 中学校の取組】

不登校生徒の状況

対象生徒は、現 2 年生で、1 年生 2 学期始業式翌日から急に教室に入ることが難しくなった新規不登校生徒である。友人とのコミュニケーションや学力等の悩みが原因だったと思われる。複数教員との関わり、スクールカウンセラーの教育相談や別室での対応等により、2 年生になって登校できるようになった。現在は部活動にも毎日参加している。

具体的な取組

本校では「担任 + 1」を目標に生徒が相談できる組織体制をつくっている。現担任だけでなく、部活動顧問、元担任や学年主任等が積極的に生徒や保護者と関わりをもつように指導を進めている。実際に担任以外も家庭に連絡することもある。対象生徒の場合も、登校したとき必ず相談できる先生がいた。

早期発見・早期対応のため、生活指導部会では不登校生徒についての情報交換を毎週行っている。校内の機関であるスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーも毎回参加しているので、今後どのように関わるべきか考え、そのまま教育相談につなぐことができている。対象生徒も早期対応により短期間で教室へ復帰できた。保護者にも協力を得ることができ、速やかにスクールカウンセラーの相談を受けられるようにした。

不登校傾向のある生徒を対象に、現在別室を設けている。別室では教員だけでなく家庭と子供の支援員やティーチングアシスタントも指導に当たっている。対象生徒も登校できないとき、最初は別室で対応した。また、別室でも定期考査を実施しているが、合理的配慮を必要とする生徒とともに毎回受けることができた。その結果、対象生徒の場合、学習の遅れが少なくなり、すぐに復帰することができた。2 年生の現在も、授業に前向きに取り組んでいる。

担任が、「Google クラクルーム」でこまめに連絡を取り、宿題や今後の予定・個人的に話すべきことを伝えていた。そのため、自宅にいてもクラスでどんなことが起きているか生徒が把握することができた。登校した際に安心できる環境をつくることができた。

成果

多くの教職員や S C が関わることでクラス環境を整えることが、不登校生徒の登校に大きな影響を与えた。現在、対象生徒が安心して学校生活を送ることができるようになっている。自分のクラスや部活動でも、自分の居場所があることで自尊心を高めることができたようだ。

課題

相談体制を継続し、対象生徒を今後も注意深く観察していく必要がある。また、全校生徒に「担任 + 1」の体制を浸透させたい。

